

---

# 愛の形

変態な愛国者

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

愛の形

### 【コード】

N01830

### 【作者名】

変態な愛国者

### 【あらすじ】

サーニヤの奴隷になったエイラ。愛に溺れてお互いを貪りあう。

(前書き)

以前投稿した「いつまでも」の続編です、続編は書かないつもりでしたが気まぐれで書きました。まだまだ初心者ですのでかなりの駄文ですか楽しんでいただければ幸いです。

「エイラお散歩行きましよ」

「うん」

私はサーニヤの奴隷になった。サーニヤの言う事は何でも聞くし絶対に逆らったりしない従順な奴隷に。

私は今首輪をつけて基地の中を歩いている。見た人はみんな驚いていた。同じようなことをしていたミーナ中佐と坂本少佐は別だったが。

「エ、エイラさんそれどうしたんですか？」

「宮藤か、私はサーニヤの奴隷になっただ」

「エ、エイラ・・・」

サーニヤは少し恥ずかしがっていたけど私はサーニヤの奴隷になれたことが誇らしく嬉しくてみんなに自慢したいくらいだった。

「エイラ早く食堂に行きましよ」

サーニヤが少し強く首輪を引っ張る。恥ずかしがってるサーニヤも可愛いな、なんて考えているうちに食堂に着いた。みんな見ている。まあ当たり前か、首輪をつけてる人なんて普通いないからな。

皆が食べ始める。私はサーニヤに口移しでご飯を食べさせ始めた。皆の視線を感じるがそんなことはどうでもいいことだ。私の世界にはサーニヤと私の2人しかいないのだから全く恥ずかしいという気持ちは感じなかった。

「サーニヤ、美味しい？」

「エイラの唾液が混ざってとても美味しい、もっと欲しいな・・・」  
少し恥ずかしそうに言うとサーニヤは私にキスをしてくる。サーニヤはご飯よりも私の唾液がほしいのだろうサーニヤはキスをやめようとはしなかった。

私たちのやりとりを見ていたミーナ中佐が突然

「美緒、私もう我慢できない」

と言い放つと坂本中佐にキスを始めた。

ミーナ中佐と坂本少佐のキスの音が聞こえてくる。

「美緒、美緒、美緒」

ミーナ中佐が坂本少佐に抱きつく。

「はっはっは、私の主人たる者がどうした」

「もう、部屋に帰る。部屋で私といるいろしょ」

「そうだな、私もしたくなってきたところだ、はっはっはっは」

2人は部屋に帰って行った。私たちはその場でし続けていたが。

「サーニヤ、いい匂いだ」

私はサーニヤに膝枕をしてもらっていた。奴隷なのに本当にいいの  
だろうかとは思ったがサーニヤがしたいと言ったので私はサーニヤ  
の膝に頭を預ける。

「明日も口移しで食べさせて」

「ワカッタ、でもサーニヤご飯はあんまりいらんじゃないのか」

サーニヤが顔を赤らめる、「ご飯が要らなかつたのは本当だったのか。

「エイラ、続きをして」

私はエイラにキスをする。舌をからめお互いに貪欲に貪る。

「サーニヤ、サーニヤ、サーニヤサーニヤサーニヤ」

サーニヤに抱きつき、愛する人の名前を叫ぶ。

「エイラ、私はキスをしてって言ったのよ何で言う事を聞かないの  
？」

「ア、ごめん」

「エイラにはお仕置が必要ね、その手錠を取って」

私はサーニヤに手錠を差し出す。サーニヤは私の腕を後ろ手に手錠  
で縛り私をうつ伏せにさせる。

「エイラお尻を上げて」

私はサーニヤに言われた通りにする。乾いた音と共に私のお尻が熱

くなる、サーニヤが何度もたたいてくる。痛いのに、気持ちよくて。「エイラはどうして嬉しそうな顔をしているの？私はお仕置きをしているんだよ」

「サーニヤにお尻叩いてもらうとなんだか気持ちいいんだ」

「ふふっ、エイラは私にどんな酷いことをされても気持ちよく感じるの？」

「タ、多分感じると思う」

言っちゃった、こんな変態なこと言ったら嫌われるかな？

「それは私を愛しているから、そう感じるのエイラ？」

「ソ、ソウダ」

サーニヤは私の体を起こし私に抱きついてくる。ああ、なんて可愛いんだ。

「エイラ、これからもちゃんと私の奴隷でいてね」

そんなことを言わなかったって私は愛するサーニヤの奴隷だかんナ。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n0183o/>

---

愛の形

2010年10月20日19時50分発行